



生い茂る枝葉を伐採する参加者

「協働」の心で地域をきれいに

■川崎区県道緑地清掃活動

川崎区（榛葉輝一区长）は2月18日、仁田竹橋近くの県道緑地の清掃活動を実施しました。緑地にはツツジやモチノキなどが植えられていますが、伸びた枝葉にツルが絡まり、付近の交差点で車両が右左折する際に見通しが悪く、非常に危険でした。任期の締めくくりとして「地域の環境美化は自分たちの手で」と、区役員らが区民に呼びかけ取り組んだもので、参加者らは生い茂る枝葉に悪戦苦闘しましたが、約2時間半の作業により、緑地は見違えるようにきれいになりました。

就職担当者に市内企業を紹介

■市内企業現地見学会

県内の高校や大学の就職担当者らを対象とした企業現地見学会が2月14日、市内4つの企業で行われました。市や企業、教育機関などでつくる「産業雇用支援ネットワーク」が、地元企業が求めている人材を知ってもらおうと4年前から実施しているもので、市内や周辺地域の4高校、2大学の担当者など15人が参加しました。企業からの事業概要説明や作業現場の見学が行われ、参加者は熱心にメモを取り、現場の状況や採用方針などの雇用情報を収集していました。



企業の担当者から業務内容などの説明を聞く参加者

全国大会での活躍を誓う

■バスケットボールスポーツ少年団市長表敬訪問

3月下旬に東京で開催される「第43回全国ミニバスケットボール大会」に出場する市内のバスケットボールスポーツ少年団「シリウスクラブ」の選手らが2月29日、市役所榛原庁舎を訪れ、市長に喜びの報告をしました。チームは川崎、細江両小学校児童で構成。2月5日に静岡市で行われた県大会で優勝し、全国大会出場を決めました。市長から激励を受けた河守大世主将（川崎小6年）は「予選を勝ち抜き決勝リーグに進み、全勝で優勝したい」と意気込みを語りました。



市長から激励の言葉を受ける選手たち



紅梅をめでながら俳句を考える児童

早春の訪れを感じて一句詠む

■俳句会/片浜小学校

片浜小学校は2月22日、学校近くの相良梅園を訪れて俳句会を開きました。総合学習の一環として地域の自然に触れ、季節感を味わうことを目的に毎年行われているもので、全校児童38人が参加しました。児童たちは、約700本の紅白の梅が植えられた庭園を散策。気に入った場所を見つけると、五七五の17字になるよう指折り数えながら「梅が咲くそれと同時に 命咲く」「水色の 空に浮かんだ梅の花」などの句を、思い思いに詠みました。

広報担当がどこにでも取材に行きます。あなたの身近なホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

秘書広報課 ☎ (23) 0052 ✉ seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp



本通りを一斉にスタートする2.5キロの部の選手

早春の相良路を900人が力走

■第55回田沼意次牧之原市マラソン大会

「第55回田沼意次牧之原市マラソン大会」が2月5日、相良地域で開かれました。大会には地元のほか友好姉妹都市の長野県松川町、島根県や岐阜県など、県内外から約900人が参加しました。コースは相良中心街の本通りをスタートする10キロ、5.22キロ、2.5キロの3つ。選手たちは沿道の住民の声援を受け、男女・年代別の計19部門に分かれて健脚を競いました。また、大会運営には市民や学生ら約280人がボランティアとして参加したほか、地元事業所の協賛により市の特産品が参加賞や賞品として贈られるなど、出場者らは地域色豊かな大会を楽しんでいました。

豊作願い御神体を守り抜く

■一幡神社の御榊神事

菅ヶ谷の一幡神社に伝わる県指定無形民俗文化財の「御榊神事」が、2月10日から12日にかけて行われました。同地区で古来より神事に奉仕する28戸の名（苗）の中から選ばれた年番の「本名」は、御本飯と呼ばれる御神体の餅を「さいの目」に切り、榊の葉に包んで一幡神社にある御飯屋の中に安置し、一年間にわたって大切に守り抜きます。御神体は御飯屋の中で稲の霊力が増幅され、新たな力となり地域に翌年の豊作をもたらすといわれています。



榊の葉を口にくわえて一幡神社に御神体を運ぶ行列



記念品を交換して握手を交わすガンバートル議長（左）と市長

上水道整備による友好交流を推進

■モンゴル国ドルノゴビ県人民会議訪問団歓迎式

静岡県と友好協定を結んでいるモンゴル国ドルノゴビ県の人民会議訪問団歓迎式が2月2日、相良史料館で行われました。歓迎式には、人民会議のゴンボ・ガンバートル議長ら21人が出席しました。市長は「県と協力しながら、上水道などの分野で交流、連携に取り組んでいきたい」とあいさつ。ガンバートル議長は「水には苦勞しているため、水道事業や施設への協力をお願いしたい」と述べました。